

## B—67 糊料に関する研究

### (1) 各種糊料で糊付した布の性質について

大谷女子短大 ○吉元由紀子  
三品 岡良

1. 市販の各種の天然および合成糊料およびそれらの誘導体で各種の繊維の糊付を行ない糊料と糊付した布の性質との関係を明らかにする。

2. 糊料としてはジャガイモデンプン, C. M. C., セロエース, P. V. A., ナルコ D. P., K-101, サンフロック, ジャガイモデンプン+エリオン(0.5%添加)の8種類をまた繊維としては100%木綿, 100%テトロン, テトロン—木綿(65:35)混紡品の3種をえらんだ。各種糊料の1.5%の水溶液を作り, これに繊維を30°Cで60分間浸漬し余分の付着糊液を遠心分離で除いたのち, 自然乾燥したものを試料とした。防湿度はJ. R. C. グリースレカバリーテスターを用いて開角度法により測定した。

3. 糊付を行なうことによって木綿, テトロン, 木綿—テトロン混紡品いずれの場合にも防皺性は低下することがわかった。とくにC. M. C.においては, この傾向が最も大きく以下ジャガイモデンプン, セロエース, ジャガイモデンプンにエリオンを添加したもの, ナルコ D. P., K-101, P. V. A., サンフロックの順に防皺度はよい結果を示した。サンフロックの場合は未処理の繊維に近い防皺度を得た。繊維別にみた結果では防皺度はテトロン, 木綿—テトロン混紡, 木綿の順序であり, この傾向は糊付を行なった場合も変らない, また木綿の場合にはセロエース, ナルコ D. P. はジャガイモデンプンよりも低い防皺度を示すが木綿—テトロン混紡, テトロンの場合にはジャガイモデンプンよりも高い防皺度を示した。